

# 今春の飼料作付で 増産に役立つ牧草・青刈・根菜類

## (一) 寒冷地の春播き永年牧草

寒冷地の永年牧草の播種は、冬越しを良好にするために晩夏以降の播種はなるべく避け春播きされるのが常例です。そして暑さに対する保護、雑草の抑圧を考へて保護作物として麦類、豆麻等に混播致しますが、この場合採草地に用いられる牧草の主体は、なんといつても赤クロパー、チモシー、オーチャードグラスでありましょう。更に同じ採草地でも特殊な土壤条件、例えば湿潤地にはアルサイククロパー、ペレニアルライグラス、メドウフェスク等が、乾燥肥沃地にはルーサン、ブロームグラスが、瘠薄地、荒地等にはケンタッキー三一フェスク、白クロパーが主体となつて始めて増産が期待出来るであります。

一方放牧地としては前記採草地をそのまま利用することも出来ませんが、矢張り再生の点では物足りないのでラデノクロパーが主体となり、これに混播するものとしてはオーチャード、ペレニアルライグラス、メドウフェスク等が適当なものであります。

また、これら牧草を選定するに当つて考えていたべき度い事の一つに品種系統の問題があります。主要な牧草にはそれぞれ幾つかの優良品種が育成されており、単に品種選択だけで、思わぬ増収が出来るもので

あります。  
今主要品種の簡単な特性を示しますと次表の通りであります。

永年牧草主要品種特性表

品種名	主要特性
赤クロパー (ケンランド)	在来種に比し稍晩生、東北以南の暖地に適し、特に暖地の炭疽病に強く在来種に比し二割以上増収。
赤クロパー (マンモス)	在来種に比して約一カ月の晩生、耐病、耐寒性で、北海道の東部、北部の一回刈地帯に、又在来赤クロパーの一・二番の繁ぎ用として好適、多収。
アルサイククロパー (四倍体)	在来種に比して二週間晩生、莖葉大型で、五割の増収。
ルーサン (デュービット)	西欧で育成された品種で、北海道の中部以南、本州各地で多収を得ている新優良品種(本年は大量に準備しました)
ルーサン (グム)	寒地で優れた生育をする、耐寒性品種。
オーチャード (雪印改良種)	晩生(在来種よりも約二週間)で多収、赤クロパー在来種と混播して丁度刈取期が合致。
チモシー (雪印改良種)	晩生、葉の多い多収品種。
ペレニアルライグラス (S-二三)	耐病、稍晩生で草質柔らかし、弊社取扱いのペレニアルライの主体をなしている優良種。

## (二) 短い期間で収穫される春播牧草

寒冷地でも温暖地でも早春に播種し、三カ月内外で多収の得られる牧草としてはクリムソンクロパー、イタリアンライグラスがあります。いずれも冷涼な気候下でよく生育し、特にクリムソンクロパーは酸性に比較的強く燐酸分の少ない土地でもよく生育し、イタリアンライグラスは湿潤地でもよく育ち、共にあまり土地を選ばない牧草です。

## (三) 夏の暑い時期によく伸びる青刈類

耐旱性のソルゴーとこれを圧する様な大葉つる豆の繁茂



豆科牧草の両雄 右 赤クロパー 左 ルーサン



エンシレージ材料または青刈りとして最も栽培し易く、馴染み深いのがデントコーン（モロコシナンバ）でありますが、従来は兎角草伸びのする白色デントが歓迎され勝ちでしたが、エンシレージ用としては十分実の着くもの、青刈りとしては三カ月位の生育期間であれば、初期生育の早い早生系統が有利であることは各地の成績で判然としておりますので、今春はエローデント、特に寒冷地では一代雑種の早生系統をおつくりになつては如何でしょうか。

またデントコーンと同様エンシレージ材料ともなり、一、二度刈り以上の出来る再生力の旺盛な青刈り、テオシント、ソルゴー、スーダングラス、パールミレットも多収が得られます。特にテオシントは西南暖地ではデントコーンの三々四作分の収量が得られ、ソルゴー、スーダングラスは夏枯れ時期にも旺盛に伸びる極めて日照りに強い作物ですから、夏枯れ時のピンチヒッターとして是非とも起用したいものです。なおスーダングラスは最近特に二番刈以降に各地で葉枯病が発生するようになって来ましたが、これには耐病性品種のテフト、パイパーの利用をお奨めします。これは常に旺盛な生育を見せ、葉の多い青刈りが得られます。

そしてこれら高稈（草丈の伸びる）の青刈り類には必ず、大葉つるまめ、カウビー等の纏繞する荳科の青刈り類や青刈大豆を混播して、量と質（特に蛋白質）の増産に役立たせるべきであります。

青刈大豆、ひまわりも短期間に生育し、青刈大豆は真夏の蛋白質飼料として、ひまわりは玉蜀黍の欠株補播用または春、夏、秋の青刈用としても作り易く、多収な作物であります。

(四) 根菜類と葉菜、果菜類

多収で栄養組成の釣合いのとれた中間飼料（濃厚飼料と粗飼料の両方の性質を兼ね備えた意味）の根菜類は何れも冷涼な気候を好み、暖地では早春または秋に播種されますが、寒冷地では殆どが春に播種されます。かぶは三カ月内外で収穫が出来、春播きのものは丁度牧草の一、二番の切れ目に利用出来、ビート、ルタバガは冬季の貯蔵飼料として、青草の給与の出来ない冬期間の長い寒冷地では、欠くことの出来ない飼料であります。

主要家畜根菜の品種特性

家畜		ビート		ルタバガ	
シユガーマンゴ	青首で白色の根となり、各地に好適貯蔵力大。	ハーフシユガー	橙黄色で、肉質幾分軟かし、多収。	ハウイトフレック	パイアルトップ（紫色）、白腐病に強い馴染み深い多収種。
エロー	葉は幾分少いが、巨大となり、肉質堅く最も貯蔵がきく。	ハーフレッド	比較的肉質軟く収量極大。	スミースラウン	パイアルトップ（紫色）、耐病で根部の円滑な多収種、幾分小型です。反当本数を二割位を多く立てる様にします。
バーレス・ストリーネ	比較的肉質軟く収量極大。	リリー	地によし、肉質軟く収量極大。	ウイルヘルムス	グリントップ（緑色）、根部円滑多収、耐病の良品種。
エッケンドルフ	一昨年各地で好評の赤色マニ形の肉質中な多収種、本年は農家の強い要望から再び販売開始。	レッド	一昨年各地で好評の赤色マニ形の肉質中な多収種、本年は農家の強い要望から再び販売開始。	雪印改良	肉質は緻密、生長早く多収種。積雪寒冷地向きだが暖地では冬作の前作に可
カブ	春播きのものは丁度牧草の一、二番の切れ目に利用出来、ビート、ルタバガは冬季の貯蔵飼料として、青草の給与の出来ない冬期間の長い寒冷地では、欠くことの出来ない飼料であります。			紫かぶ	根は扁球形で頗る巨大、耐寒性も強いが暖地では収量前者に優る。

葉菜としては春、夏、秋の各季節に播種して青刈り出来るレーブ（青刈ナタネ）や、特に飼料用として育成されたC・O（合成ナタネ）は短い期間で多収が得られ、しかも栽培しやすくて多汁な青刈りです。かき葉かんらん（ケール）は年中緑葉を得られる集約多収栽培向きの葉菜として各地で注目されておりあります。

果菜類として家畜南瓜（ボンキン）は春、霜の心配がなくなつてから播種し大体一〇〇日で収穫出来、反収二〇三〇〇貫の多収となりますが、貯蔵力がなく、収穫後一、二カ月位で給与出来る程度に栽培すべきでしょう。

耐旱性強く年に数度の刈取り出来る  
一万貫牧草 スーダングラス



初秋の多汁飼料  
ボンキン

